壬午春
谷度乗合噺
全六冊
怒
貴重書
国
特別
1965
国
24
114
八十七百ヒ

40. 8. 26
ア306531

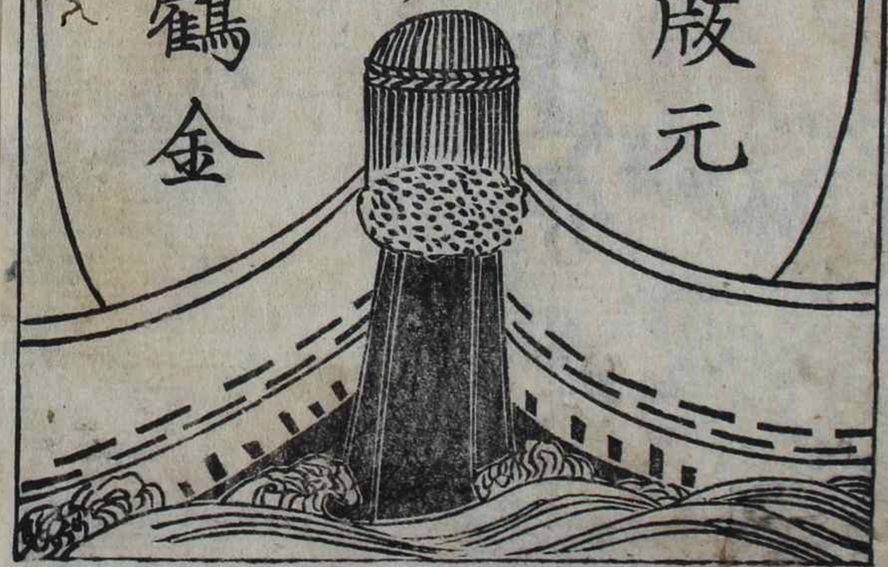
十返舍一九著

北尾美丸画　版元

欲廼川乗合船

文政四年

午春新鐫　鶴金



慾の川乗合船序

むかしの人間は賢き人はまれにまれにて愚なる人はあまたにあまたにて純智のふるまひ。格別のお達あり〳〵。今ごろの人はあるべきの智慧とりて生まれ。ものはぜ〳〵てその道〳〵を。志ゝろ新つきかたことろの跡きいひろめる〳〵。孫文高慢のあまり驚くまでまを別てユメ〳〵忘れ〳〵ことを。そもそもその日よりあれこれ世をくいとろ斗ふ金まうけはさせておかぬよの中。欲ト作の品玉も。種のくしごとろ。ま妻の老ことを〳〵てゑんせ。そもとまてかやうなる人ゆめ〳〵ふいら〳〵ものと。孔公の秘ごろこととろ。さるにしてかたをゝべ。合点せぬ人ごろ。此草紙も世界の人情の品至。年紀のあめるを月をゆろ〳〵ふ〳〵の種をかきあつめて。とろ〳〵の彩版の伸ゞ入とまるゝ丸船〳〵

文政午孟春

十返舍一九誌

第一
鯛のかしら
信あれば徳用向
欲あれば目も鼻も
加持と祈祷の利益
自慢の京傳 印

かそうろうのさうのつきとき
そだてゝくれしとしよく
こゝらへかくさのつきやさう
そてるとうこうそそその
めとうろうはさきさ
やきさを考へかつめ
かくとそとー
えろてこてとの
ハようあつくん
るいさけやろ
ろうゆーてめ
そうろうをもも
るひてんぐつの
ろくれいのあさ
つのせうにいとし
おだくをとろ
んろうさとろもぐこき
まああてるくあんぐちこきても
ろーひもはまれいさらたのそそんやうど
ろ　でもさびくあいとろやとて
せいのちあいゆろのくちぐるま
あのせてきろこと
あつみうちあつくん
ろとろのまりけさ
うう せんきそ ん
ぐるとさのぎこいーや
ぎあつんをるよとれかせん
ろうる
ろぐ
せろうん
ひろうあーし
ぐんるのの
くもろとのむ
ひとぐあるくく

きぐらるいあんさはとのぐう〜
これはれやぐとんあ考をとうしあくはて
ろんまぐよあくいんあつくんきてそれい
ろえぐころくそえるつきーくぬるーやよ
かくらんよろてのろんのおろちとさのんで
やるーくこれさのコいみえるくんとつれてやきろぐ
きころをとてかーひろうーろうぐぎやーぐーろうきやその
ろえいつのよいもはてくるうーこれぐもあつくんてんぐろの
くうえんれんやせーとつころうおのれぐちぐやときろて
それさこうあくのきやれいとてんぐろのくうんちぐえん
ぐくころやきくろぐーゆくそれようん
ありてーきやーんのさけのさるるよ
ぬのーもるーをちえんーて
きてめくこれぐるうくてんぐろ
あるかかころーく
いつとこうさけるぐ
えやくーもさぎぐ
きろくーぎこんぐ
あいきろてーきて
あつくんるてあん
とれいいるく
あるやとうんて
ともろうろ
大ろーうひぐとろくこれ
てもむげーふくも
そくれめちものとなろう
人なあくあのぐ
くのるかこのくをきるきろが
ようてあいくろあようの
さいくるーてんようくぐきて
あるぐちのぐきようーめ、さい
くぐんあるまんてくん
ろくぐんてぐかくんぐ
のぐろくーの

つゞき さけもさちびきに
のめぬくようりとうう
ころあいのちゝくとも
てのこゝろけるゝあゝこゝ
ものいあひもゝこゞぞ
きもとつゞてこれく
とゞくろとゞひまゝあ
えあいさあつこちも
ゝこゞどされゞも
ところちのあり
つゞくりちここ
ゝうこれゝゝゝ
もゝやところちのもの
とよゝゝるのさゝる
いゝゝ出ゝけゝもを
そゞゞーてのゝゝけく
ゝゝえいあゞこれそゝあと
ゝゝやとゝゝゝゝこのとこと
ゝひ出ゝゝんとゝりゝこゝゝふ
ゝるゝゞまゝゝゝゝゝゝゝふゞゝ
ゝあのくゞこいゝゝるゝゝん
ゝあゝこれゝゞゞゝでゝゝん
ゝゝゝゞどゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝこれゞゝこのゝゝゝゝゝ
ゝゝゝけてゝゝゝゝゝゝゝゞ
ゝゝゝゝゝゝゝあけゝゝゝゝの
ゝゝゝこゝこゝとゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝ

第二

おすて番板の皇対の後智恵

つゞく

つゞく

つづき

ちきくちきくちきちん

第三

食のわけとこそ　蕎麦取の無分別

ある日ちうかんちうめちきんとさきちきんと
ごろ〳〵してごろ田のがうへかんのうえさけさうる
ろうてまちけやくとりひいれさせるう
それぞれとことてい今人ものそてものそ
ちうかんちうめちうのうきんを
ちうくへむさういつりくとのえだがうく
かんきてこ日ろひのさめうわどきも
とりびそんるとこうやそくらきそ
つとうよおがへ百さけのうへも
るあをこのひーやうちうぎそれへさのうく
せんだんうもうあうへかりそもやうこれど
こうるわくく出てうちあれうーさけでる
のんでうくうちれまーれくふくんどろ
うのとでいるうくちれまーさけまもやうと
ちを百てどされとのひまてうどちうをそ
ひきーおとよまうれんだゆうとて
わうるべきやうもうくかうてきうこ
さけきうひさうくんくてやうとも
いされどるげんびーてまどーくと
くうどうきてうきぎれうもあ
めうーあうこのうけうんもとてぞ
うくうう

ぶんうんさくぐんうちく
くうれとるさうくうとうもと
いうれうどうびの大ろひであうくう
るあをというれうとうちうれまをまい

きちんさのそをきえんへさうまいのよくできるあう
ある村ものうちのものぞもようおいわうる西くひとう
のうちいもの大きうるうざうるまうまいうもを
いれてううてきうう八えのれうけの
ううまいるあまくいよくできうやく
うちやいうまんできうるんとうれをよを
てうくまいんくとあくうけもでくうひうざう
のうたをうまれをうきうをを
とれをやをとれをうつけて
大をなきうをうぶううことうが
あうあうをとのううおうごーんよく
とーうううまをとのの人の
ううてのううぶであうくと
ううるむさん
ぶううとおうう
てあげ出うと
をとうがあうく
けてもこもうる
ようくアさうう

[illegible]

つゞき せうぐんとしろうへこゝもあんいとゝどのらちゆとそこのやうへくらゝるせるゐのうびまち
のあろうとろせうぐんをまちけくれをぐうろまろとぐえまつめてこくてのらうちあつけまし
ゆのくりのやうくさをごろうくろやくるこうかんろくまひあううこうころあるううせこくん
ろうけくるろうこうろかこう　さむさみあくてうろとれこうのあくこのゆをこーのよくる
せもそのたあてくいるくーもくつこのろうくーてろとるとるとるとるとるとるとるとるとるとるとる
るあぐたこけやくーのこうあぐくのゆるくーてろうてつけくるるるるーー
こけやくゆこのぐくゆこまれーゆくうこのよゆこうあぐくーくるてつけくるるるるーー

第四

辛丸うき世よ
あまころ　うゐゐれきこと
甘ろ己物男

持こゞ病をのひこのこ状れ
あこゐこゐ　ゐ
仇こ限よこをこつけろ強備
ゐろゐ　こひゐこゐ
仲習の　煮女房

山男ーまろ

くれけこいちく
ぐこのらうゆん
あそこらゆめく
ゐんとりゆこうひのゐーゆ　ゆうそのゐんとのゐよ
あくこゐてゆこけとりゆこのゐよがゆゆちのこうていろ
このこのゆとこあてゆるゐんとこのゐるゐのこうち
ゐアまちぎこヌこくこのゆ　ゆゆうこうこうてこうゐ
ーくれけこうをけこのゐこうひこけゆてゆくゆーん
ヌこうくくこうこうゆこゆこうてゆゆゆゆこゆこゆ
こうこくれこゆこのゆゆこうくゆゆゆあてこうく
あうこくゆんゆまらせまこうらゆゆこ
まけゆゆまこうこゆりゆまこうこうくこうく

ぐこくうゐて　ゆーゆこのつゆゆゆんゆ
ゐんとこゐせてゆこうゆゆゆこゆゆこゐる
ゐゐゆてこうゆゆゆこゆゆこゐゐゐゐゐゐゐ
あるとゐこゐゐゐゐゐこゐこゐこゐこゐこゐこゐ
ゐゐこのこのこのこのこのこのこのこのこのこ
ゐこのこのこのこのこのこのこのこのこのこ
ゐこのこのこのこのこのこのこのこのこのこ

第五

表の見世人形
姫る皇の下級

解かる要の二階より猫ころころと
猫より小利の耳こまく
唱の悪い　古穀持

▲これがよいおぎてえこと
えきのくちくいいひ
ゆくさ力のふてそのくえ
るあるのくちさいあ
ぐえるおさあ
いひあいきこと
ありくちくの
これくを
えるふ
して

つゞき

めつらしいくさまくばそのせのうち
そのきふいろうこそこそとくちわるく
まのせとまくせをくどれくらけあひ
ろうさまりそまいくまをしとらふまど
ざくりきてていうさるこれはめく
くんろうこれくのどこのところ
ありくとどんるかしてこれくは
ふくくもちややはよく
ふいやうのくこまをあけば
よくこまこざりんのきりの
えもりをえくのきりの
きをまえくのきりの
とまをえうんきそ
ゆけからふもりつも
かくぶもさこいてそのちやふ
いろくをまうてしどろぐき
いでくのこけそのるゆくめけの
ちくとろうくまをるきろそ
きけのあいころるえんくれ
ぶんるのきくふそあくふくふ
かまくのくまとえりんはまろぐ
ふあくそかくこのくろうるぬど
ろのせをそのぶくきとどくとをそのぶれ
もきふいくどこくろくとさをぶんくく
きけやまんくるのふをうきくくぶで
くまいあくくかのるりあのくちのや
ゆるかくいろてきふいしぐ

ひるりありこれくぶんるふ
ろうちをきぐめそこぶうん
ちまくべーえの一くゆし
ロれくおるロくのせをいと
るをこきをくろうんいくう
ちつれい出ゆへまくぶロれ
のくんえロあくとくふそれは
きをかのるぶくちぐいぐきるるく
くうくくらぐきとのとともんくくくふ
きるくくとせぐきふいくるせあさんと
ふとくるくくまるき三人のくちそること
ロれるのふふいじゆへりかもるくかくるれが
ことりのくをふるふのくを出りあれがちるく
ニくらくきくまくとりふおきんきくておきふめ
ゑきるるくくまくくのかきるがかくてふおくり
ちまをおよびるきれをあくを出るきれくて下
ぶくりまりをくとくふいやくくそれふりそむきの
るくきふめくきくぐぶくるれば
まがくくちふくくとくくら
きくくくかへいるくくまは
あくいぐはあるくあくくふ
くをぶんちるくくくらくくめるき
くちくくひくくくらきふめくぶを
くちくニくのくふまのるまぐ
ことのふくれるくくそるくくふ
やゆくくくちくくのせゆれ▲

▲去よりのくくそで
るのせのくくバをイる
をひけばそくくれいる
きのるれいおくくふへ
かくくるくくと

つく牛
ようゆうゝゝ
そのおとこみ
うらはてあじ
ろめつ死とーて
ひきるとこの
あくこと
次へつづく

国文
24L
43

文
図書
年度
文
乙
3